

広報ひこね

4 / 15



かつては曾根沼だった荒神山付近の農地（石寺町）



思い出の場所に立つ西川さん

表紙では、「住みたい 住み続けたいまち」彦根の表情を写真で紹介しています。写真をお持ちでない場合は、**園情報政策課**広報係で撮影します。☎22-1411（内線431）へ気軽に連絡してください。

かつて、荒神山の西側一帯には、現在よりもさらに大きく曾根沼が広がっていました。沼にはハスの葉やヒシの実などが生い茂り、岸边にはヨシが群生していました。冬になると、「つけ」と呼ばれる方法で、漁業も行われていました。

近くの下石寺地区が私のふるさとです。当時、その地域に住む人は、田舟に乗り農作業に出かけていました。私も小学生のころには、冬支度をする母親に、舟で荒神山へ芝刈りに連れて行ってもらいました。

現在は、その沼も湖周道路をはさんだ広大な干拓地に変わり、稲作や果樹栽培が盛んに行われています。実家に帰ってこの地区一帯の風景を見るたびに、子どもころの思い出が次々に浮かんできます。私の思い出深い場所の一つです。

表紙のことば

西川 一郎さん（本町二丁目）

かつて、荒神山の西側一帯には、現在よりもさらに大きく曾根沼が広がっていました。沼にはハスの葉やヒシの実などが生い茂り、岸边にはヨシが群生していました。冬になると、「つけ」と呼ばれる方法で、漁業も行われていました。